

# 「創刊 53 号ほぼ月間太っ腹新聞」 ～踏んじまったぜ！犬の〇〇の巻～

読売センター代田橋梅丘所長 &太っ腹新聞主筆 柴田秀昭

皆さんこんにちは。いやあ参っちゃったなあ～って何が？もうあとわずかですよ、今年も。あと 1 か月ちょい。参っちゃいますよね、早くて。つい最近まで半袖を着てたのにもう正月が来ちゃいます。

聞くところによると「一年が早いなあ」と感じるのは大人の証拠とか。それも年齢が高い方ほどそう感じるそう。というのも年齢が高いということは過去の経験値が高いということ。つまりは日々の生活の中で「初めての出来事」に出会う場面が少ないからだそうです。そう言われればワタシも。半世紀も生きてくれば初めて出会うという人もなく、仕事も例年どおり。家に帰っても顔をみるのは年代物の女房殿。変わった言えば娘が生意気になったことぐらい。つまりは毎日が「かつて起こった出来事」の繰り返し。そりゃあ早く感じますわ。でもそれこそが幸せなのかもしれないし・・・

というわけで、今日のテーマは「今年初めて出くわしたこと」。ありました！一つだけ。あれはたしか真夏の早朝。門のポストから新聞を取ろうとして外に出たところ、眼下に見慣れぬ異物が！「何これ？もしかして・・・ウンチ？」大きさ、量からして間違いなく犬のふん。それも中型犬以上と推察。「参ったなあ～なんだよ。飼い主さん始末してよ！」と思ったものの後の祭り。犯人いや犯犬は既に逃走後。だとすると始末するのは第一発見者たるワタシ？勘弁してよ～アサイチから犬の糞の始末かよ～と嘆くと心の中の悪魔がささやきます。「見なかったことにすれば～」。賛成賛成！そうしましょってことで何事もなかったかのごとく家の中へ。すると 30 分後朝食中の私の耳に推定 70 デシベル、娘の声が！「ママァ～玄関にウンチ落ちてる～」やばっ、と思いつつ聞こえないふりで味噌汁を一飲み。すると憤まんやるかたなき形相の女房殿のお顔。「ひどいよねえ～他人の家の真ん前に犬の糞をさせるなんて！」ごもっとも、けしからんですな、飼い主さん！「でもさあ、パパ気が付かなかったの？新聞取ってきたでしょ？さっき」やべえ・・・「いや全然」。すると「そんなわけないでしょ！あんた(この呼び方こそお怒りのサイン)、気づいたけど知らん顔して後でアタシに始末させようとしたんでしょ！」凶星や、思いつつも口から出たのは「いや、全然」。その後数分間にわたり女房殿の御説示を頂戴したのです。

それから約一時間後、仕事に出かけようと玄関を出ると再び登場、犬のうんちくん。やっぱ始末すっかなあと思うもつかの間、再度現わる悪魔くん「いいんじゃないのそのままで・・・」悪魔くんはいつもワタシに優しいんです。どうせ今日は帰りは遅いし、明日になれば忘れてんだろ、女房殿も。「さわらぬ糞にたたりなし」そう決意すると何となく気分が楽になって歩きだした次の瞬間・・・踏んでしまった・・・ウンチくん。

しかしくだらん話ですな、なんのことはない 50 過ぎのおっさんが犬のウンコ踏んだハナシ。子供の頃はともかくいい大人が踏んじまうなんて・・・しかもこれが今年の印象に残る出来事とは。というわけで今月のプレゼント！今月は

## 国産・無添加入浴用「乾燥ゆず」

冬至にはまだ早いけど、これで日々のお疲れをいやしてください。応募方法は電話のみ。先着 200 軒様、一軒様一個のプレゼントです。お申し込みは、読売センター代田橋梅丘

電話 3429-3965 (月～土夜 9 時、日・祭日 12 時まで)

お届けは 11 月月末を予定してます。それではまた来月